



## ボランティア活動のすゝめ

学生時代のボランティア活動は、それまでの学びを通じて培った自分の存在を実社会の中で知る、あるいは自分と社会との繋がりを確認できる機会でもあります。そこには、他者と協力して成し遂げる「楽しさ」や現実の社会を知る機会があり、学校や大学では体験できない“貴重な出会い”や“新たな学び”があります。そこで出会った人びとの生き方や考え方にふれ、それまでに身につけた知識情報を確認し、自分を振り返り、自分の良さや弱点に気づく機会にもなるでしょう。

残念なことに、平成23年3月11日の東日本大震災によって多くの尊い人命と貴重な財産を失いました。この被災地支援の中でボランティアの活動がクローズアップされました。宮城教育大学でも、震災直後から多くの学生や教職員が被災地の現場で救援活動に参加しました。災害の復旧や復興に際しては、自助、共助、公助の重要性がいわれます。この度の大きな災害では自助には限界があり、公助も十分には機能しないという状況がつかまりました。そのようなとき、ボランティアの活動を含む共助は被災地に大きな力になっているといえます。

ボランティア活動は個人の自発的な意思による自主的な活動で、社会貢献や福祉活動の上で大きな意義があります。活動者自身にとっても、自己実現への欲求

や社会への参画意識が満たされ、宮城教育大学で重視する“人間力”の育成の上からも推奨されるものです。この人間力は、カリキュラム内教育の充実に他に、サークル活動やボランティア活動、自主ゼミなどカリキュラム外の活動によっても培われるものだと考えます。宮城教育大学は、学生がなるべくボランティア活動に出やすい環境整備として、キャリアサポートセンターや教育復興支援センターを中心に、東日本大震災の支援活動への参加をはじめ、ボランティア活動を応援しています。

この冊子には、宮城教育大学の先輩たちが学生時代を振り返りながら、現役学生や高校生に送るメッセージ集の第4弾として、ボランティア活動を取り上げました。社会のさまざまなジャンルで活躍しておられる君たちの先輩が、宮城教育大学での学生時代に経験したボランティア活動について語ってくれています。是非、ここに書かれた先輩たちのボランティア活動の経験を共有し、それぞれのボランティア活動に対する認識を新たにしたいものです。

平成24年4月  
宮城教育大学長 見上 一幸